

## うそ「鶯」

短く、ピーとなくスズメほどの大きさをした小鳥が10羽ほどで小枝を移動しています。10羽もいるのに鳴き声は寂しげなものです。辺りを気遣うように静かで、その上数メートルの距離にそっと近づいても餌をついばむのに夢中なのか逃げようもしない愛らしい小鳥です。

今年最初に見たのは伊豆市の筏場から天城に入る山葵沢のほとりで、海拔410m付近のまだ脇に雪が残る1月22日の昼下がりです。群れでイタドリイタドリの枯れた花をついばんでいました。花の中の小さな種を食べているようです。



小鳥の名前は「うそ」、ほんとうの「うそ」です。鳴き声が「うそぶいてそっぽを向いて鳴らす口笛の音」に似ているから「うそ」という名前が付いたようですが、あまりにも気の毒な名前の気がします。しかし、木に付く虫を食べる益鳥であり、『鶯』という字が学ガクの旧字『學』に似ていることから、太宰府天満宮や亀戸天神社では「天神様の使い」とされ、木彫りの人形の「木鶯」が土産の定番となっていて、鶯替え神事なども行われているそうです。

でも、何年（記憶にない）か前になりますが「うそ」の大量発生で桜のつぼみがことごとく食べられてしまい、花の咲かない春を迎えたことがあったと思います。木の芽も食べれば桜などのつぼみも食べます。

ピンクの喉をしたのが♂です。今日（1月30日）の朝、庭でピーと鳴く声に（うそが来たかな？）頭を上げました。最初に一匹が目に入り、続いてやはり10羽ほどの「うそ」の群れです。休むまもなくひっきりなしに口を動かして膨らんできたウツギの芽をついばんでいました。毎年来ているのだろうか？それなら問題ないが、今年だけだと芽が伸びないかも？もっとも所詮ウツギだからま〜いいか。近くにまだ芽吹いていない桜もあるが・・・等々頭が巡ります。



♂鳥



♀鳥